

黙示録13章11-18節 「獣の国」②

1A 偽預言者の権威と力 11-13

2A 獣礼拝 14-15

3A 刻印 16-18

本文

私たちは今、黙示録 13 章に入っています。前回、13 章の前半部分 1-10 節までを見ました。前回も今回も、そのテーマは「獣の国」です。神が願われているもの、そして私たちが待ち焦がれているものは、キリストの御国です。「11:15 この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」神に罪を犯して、神の支配、神の国から離れてしまった人間がいます。けれども、小羊キリストが私たちの罪のために屠られて、その流された血で私たちを買い取ってくださいました。そして三日目に甦られて、その大能の力によって被造物を再び支配しようとしておられます。「コロサイ 1:13-14 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。」

しかし、それを由としない悪の勢力があります。サタンであり、その手下である墮落した天使どもです。サタンは一人の人に、自分の力と位と権威を与えます(13:2)。そしてそのことによって、彼は致命傷を受けて、悪霊どもが閉じ込められている底知れぬ所に行ったのですが、けれども、その力で息を吹き返しました。それによって、獣が自分たちを救ってくれる力ある存在だとして、地上に住む者たちが獣をあがめ、獣を拝むようになります。そして、その結果として竜、悪魔そのものも拝むようになります。このようにして、地上において神の国に対抗する、獣の国を打ち立てます。この前、学びましたように「反キリスト」という「反」は、反対するという意味よりも、「代替する」という意味合いが強いのです。本物に摩り替えた偽物ということです。似て非なるものです、似ているので偽物を掴まされます。サタンは、神が行なわれる贖いのご計画に真似て、神がキリストを甦らせたということを真似て、獣を蘇らせたように見せかけたのです。

けれども、そこには罪を取り除くとい贖いの業がありません。ただ、力を与えたにしか過ぎません。キリスト抜きでの平和、キリスト抜きでの正義、十字架抜きでの力、全てが非常に危険なものです。今日、十字架に付けられたキリストを抜きにして、正義や平和、力、また愛を求める世の強い流れがあります。そして十字架に付けられたキリスト、罪を取り除く小羊のことを伝え、信じる者たちが圧迫を受け、迫害を受ける時代に入っています。パウロがサタンの惑わしに警告を与えました。「2コリント 11:14-15 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのし

わざいにふさわしいものとなります。」

そして、獣は、三年半の間、聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つことが許されます。教会に対しては、主は、ハデスも教会には打ち勝てないという天の御国の鍵が与えられていましたので、迫害を受け、殉教しても、それでも残された者たちはさらに聖められ、教会が前進するという勝利の中にあります。けれども、この時期はそのような望みさえありません。ただ殉教するだけです。ですから、この時にかつてのペテロのように、捕えに来た者たちに剣で立ち向かっても無意味です。甘んじて相手の剣によって殺されるしかありません。それから、天にあるもの、神ご自身の御座、天に住む者たちを獣は冒涇します。イザヤが、「ああ。悪を善、善を悪と言っている者たち。(5:20)」と預言しましたが、反キリストが行なうのはまさしくこれです。善なるもの、神とキリスト、それに属する者たちをいかに悪であるかとそしることで。そして、実は悪であるのに、それを善であると塗り替えます。

こうして、悪魔が、神とキリストの関係を真似して獣の国で対抗しますが、さらにもう一人の獣、偽預言者を立てます。神の国は、父なる神のご計画、子なるキリストによる贖い、そして聖霊による贖いの保証によって成り立っていますね。パウロがエペソ人に、こう書きました。「エペソ 1:13-14 またあなたがたも、キリストにあって、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。」聖霊の証印をキリストの福音を信じた者には、押されます。そして、聖霊は神の贖いの保証となっております。このようにして、三位一体の神がご自分の国を立ててくださるのですが、そこで悪魔も、偽の、聖霊のような働きを偽預言者に対して行ないます。

1A 偽預言者の権威と力 11-13

11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。

「もう一匹の獣」とあります。これはもちろん、1 節にある海から出て来た一匹の獣、反キリストとは異なる、もう一匹の獣ということです。そして「もう一匹」のギリシヤ語では、「同じ性質をもった別のもの」という意味の言葉です。ヘテロスというギリシヤ語もあって、それは他の性質をもった別のものという意味があります。反キリストと同じような力、位、権威を持っているということです。この言葉で思い出す約束はないでしょうか？ そうです、イエス様が聖霊の約束を弟子たちに与えられた時です。「ヨハネ 14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」イエス様が、弟子たちを助けられましたが、主が天に昇られるので、彼らは孤児のように置き去りにされてしまいます。けれども、イエス様はそんなことはしない、ご自身と同じ力と性質を持ってお

られる助け主を与えると約束されたのです。つまり、この偽預言者はキリストに対する聖霊の働きと、似たようなこと、物まねを行なうのです。

ところで、なぜ彼が偽預言者であることが分かるかと言えば、他の箇所でも偽預言者と書いてあるからです。「19:20 すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしるしを行ない、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕えられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。」

そして彼は、「地から上って来た」とあります。初めの獣が海から出てきていましたが、その海は様々な国、国語、民族などを表していました。世界における国々の興亡を、その荒波の立つ海が象徴していました。では、この地上は何を示しているのでしょうか？これは、「天に対する地」を表しています。先に、反キリストが「天に住む者たちをのりつた(13:6)」とありました。神がアダムを造られる時に、地のちりて体を造られ、鼻にご自身の息を吹き込まれ、そしてアダムが生きたものとなったのですが、このように地に属した体を持ちながらも、天の息吹が吹きかけられた存在でありました。ところが、罪を犯したので神から離れ、それで霊は死んだものとなり、体は生きているけれども、初めから神から離れた、罪の中で死んだ者であります。しかし、神がキリストの血によって罪赦された者に、御霊をくださいます。イエス様がニコデモに、「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネ 3:3)」と言われましたね。ここは、「上から生まれなければ」と訳すこともできます。つまり、天によって生まれる、天につながったもの、神につながったもの、神の命にあずかった、ということであります。ちょうど海の中を酸素ボンベにつながれて生きている潜水士のように、天の御座におられる神につながって、地上を新たな命によって生きています。

ですから、御霊によって生まれていない者は、神の事柄を悟ることはできない、ただの人であることをパウロはコリント第一で話していました。「1コリント 2:14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」つまり、ここの偽預言者は、いろいろなしるしを行ないますが、けれども結局、「生まれながらの人間、ただの人」なのです。イエス様が言われた偽預言者そのものです。「マタイ 7:22-23 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」そして、ペテロ第二やユダに偽教師の特徴が書かれていますが、そこにも御霊がおられないことを、指摘しています。「ユダ 19 この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのままの人間です。」

そして、偽預言者は「小羊のような二本の角」を持っているとあります。イエス様が七つの角をも

った小羊として現れておられたことを思い出してください。「5:6 さらに私は、御座・・そこには、四つの生き物がある。・・と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見た。これに七つの角と七つの目があった。」角は権威や力を表していますが、キリストが神の権威と力を持っておられる方がわかります。ところが、二本の角を偽預言者は持っています。つまり、ここでキリストの権威の真似事をしているのです。それで、「竜のようにものを言った」とあります。彼は、力と権威によって語ります。イエス様が、山上の垂訓を語り終えられた時に、聞いている人たちが驚いたことを思い出してください。他の教師たちと異なり、力と権威によって語られたからです。神の権威と力があるからです、その物真似をしているのです。

12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。

13 章 4 節で、人々が獣を拝むのですが、そこにはこのもう一匹の獣の働きあってこそその獣礼拝であることがわかります。初めの獣が政治的な指導者の要素が強い一方、この獣は宗教的な要素が強い人物であります。そして、「最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた」とあります。自分自身に栄光を帰すのではなく、初めの獣、反キリストに人々が礼拝するように仕向けていきます。イエス様が、もう一人の助け主、御霊についての働きを次のように言われました。「ヨハネ 16:14 御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」御霊はご自身の栄光ではなく、キリストの栄光を現します。ですから、私たちが礼拝をし、祈り、御言葉を聞き、賛美をする中で聖霊の働きが顕著になってきた時に、聖霊ご自身のことが語られるというよりも、キリストご自身の御業と栄光が現れますね。これに似せて、偽預言者は獣を拝ませるのです。

そして、「地と地に住む人々」が最初の獣を拝ませたとありますね。この後で、地に住む者たちが獣の刻印を押される場面が出て来ます。けれども、聖徒たちが殺されます。ところが、15 章に行くとそうして殺された者たちが天において神に賛美している姿が出て来ます。地上には住んでいませんが、天に住んだのです。それから 16 章において、獣の刻印を押されている地上に住民が、神からの激しい怒りの災いを受ける場面が出てきます。地に属しているのか、天に属しているのか、その大きな違いです。

13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。

偽預言者が、徴を行ないます。これはあたかも、エリヤのような働きであり、また黙示 11 章に出て来た二人の証人のような働きであります。ですから、それも真似することができるので、人々は彼について行くようになるのです。覚えていますが、出エジプト記で、主がパロの前で、モーセとアロンを通して徴を与えられました。杖を蛇に変え、また戻すというようなものです。けれども、そこに

パロの魔術師が同じ事をしました。それで、パロの心は頑なになりました。このように神の働きを真似て、神の働きを無効にしようと仕向けるのです。

2A 獣礼拝 14-15

14 また、あの獣の前で行なうことを許されたしをもつて地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。

徴を行なって地上にいる人々を惑わしています。そして、「剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣」とありますが、反キリストは剣によって一度、殺されたようになります。このことは、ゼカリヤ書 11 章 17 節に既に預言されていました。「ああ。羊の群れを見捨てる、能なしの牧者。剣がその腕とその右の目を打ち、その腕はなえ、その右の目は視力が衰える。」そして、黙示 11 章によりますと、彼は底知れぬ所から出て来て、二人の証人を殺すとあります。

この出来事をもって、偽預言者は獣の像を造るように地上に住む人々に命じます。これがキリストの御国と獣の国の違いですね、キリストの御国においては聖霊によって、神の愛によってキリストをあがめるようにされますが、獣の国では強制させます、人々に要求するのです。そして、患難期の半ばに、次のことが起こるとパウロは預言します。「2テサロニケ 2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」そして、その獣礼拝は彼の像をそこに置くことによって実行されます。

人間の歴史の中にこれと同じようなことが、いつも起こってきました。その典型は、ダニエル書 3 章です。「3:1-2 ネブカデネザル王は金の像を造った。その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであった。彼はこれをバビロン州のドラの平野に立てた。そして、ネブカデネザル王は人を遣わして、太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官を召集し、ネブカデネザル王が立てた像の奉献式に出席させることにした。」そして、その儀式においてひれ伏さなかったダニエルの三人がいて、燃える火の中に投げ込まれたという話があります。同じダニエル書で 8 章 13 節には、「常供のささげ物や、あの荒らす者のするそむきの罪、および、聖所と軍勢が踏みにじられる」とあります。これは、アンティオコス・エピファネスのことです。彼は、ユダヤ人を強制的にギリシヤ化させようとしていました。ユダヤ教のあらゆるものを憎み、それを完全に払しょくして、ギリシヤの宗教を拝ませようとしていました。それで、青銅の祭壇には豚のいけにえを強要し、また神殿の敷地にゼウスの像を立てさせました。これが、荒らす者のする背きの罪でした。

そして歴史を見れば、いや今現在も、像に対して礼拝行為をさせる場面はたくさんあります。ローマ時代は、皇帝礼拝が盛んであり、皇帝の祭られた宮もありました。キリスト者はそれを拒み、迫害されました。そして日本も戦時中、天皇のご真影の前で深々と礼をしなければなりませんでした。そして教会の讚美歌集には、君が代もの歌詞も入り、天皇賛美もしなければいけないという有

様でした。北朝鮮はどうでしょうか？金日成の像が平壤にあり、その像に献花しないと観光さえさせてもらえません。そして旧ソ連ではスターリンの像がたくさんありましたし、人々を支配するために像を拝ませるとするのは常套手段になっており、これが終わりの日には全世界的に行なわれるのです。

15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

像を拝ませるだけでなく、像に息を吹き込みます。これは恐ろしい事ですが、オカルトの世界の深みではあり得ることです。テアテラにある教会でも、偽預言者のイゼベルが行なっていることが、「サタンの深いところ(2:24)」とされています。こうやって物を言うことが出来るようにさせます。

そして、「その獣の像を拝まない者をみな殺させた」ということです。像の前で拝むのか、そうでないのかは、主の前では大きな意味を持ちます。黙示録 15 章で天において賛美している者たちが、「獣と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々(2 節)」とあります。死に至るまで忠実に、主の証しを立てたのです。20 章 4 節にも、「獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。」とあります。そして 16 章 2 節には、「獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものができた」とあります。イエス様が受けられました誘惑においても、「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。(マタイ 4:10)」と拒まれました。主にのみ仕える、拝むということです。

3A 刻印 16-18

聖徒たちに対する迫害は、これだけに終わりません。経済的な圧迫を偽預言者は与えます。

16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

私たちはこれまで、「証印を押される」という神の働きを見てきました。先ほど引用した、エペソ書 1 章においては、聖霊によって私たちが贖いの証印を押されたところを見ました。そして、黙示録 7 章において、14 万 4 千人のイスラエル十二部族の神の僕が、「額に印を押されている」幻がありました。9 章においては、いなごのような悪霊が、さそりの毒を持っているのですが、「額に神の印が押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された。(9:4)」とあります。このようにして、額に印を押されると言うことは、主に属するものとされていることを示しています。新しいエルサレム

でも、その住民が「彼らの額には神の名がついている。(22:4)」とあります。イスラエルの民に対しては、主の命令を、「あなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい(申命 6:8)」とありますが、自分の動かす手、自分の目の上にあるところに主の命令があるのか？ということが問われているのですが、神の名が額の上にあるということは、主の前にいつも自分がいることを意識させられますね。

そして獣の国では、その物真似をするのです。獣の名の刻印を押されます。そして、その対象は、「小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々」とあり、無差別であり、全住民の登録です。同じようなことが、今度は逆に神の裁きの座において行われます。「20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。」とあります。

そして、これは経済的迫害です。「だれも、買うことも、売ることもできないようにした」とあるのです。そこで不気味なのが、今の経済と今の社会です。全てデジタルでデータ化されています。物の売買が電子で行われています。現金交換が少なくなってきています。日本でもクレジットカードの他、キャッシュ・カード、スイカなどのカード、そしてインターネット取引に変わってきています。ですから、その電子取引システムを誰かが掌握すれば、一気に経済活動を牛耳ることができるのです。共同体が破壊され、人々の信頼関係によって取引されていた市場が、サイバー上に取って替わっていますが、個人主義が極端になると、一挙に全体主義に変化する可能性が高くなります。そして、最も恐ろしいのは、そのカード情報が体内に埋め込まれるという技術まで発展していることです。マイクロチップを手の平に注射して、その中に情報が入っているという方向に、徐々に動いていっています。

18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

知恵がいる、思慮ある者は獣の数字を数えなさいとのこと。このように命令されているのですから、私たちは獣の名を表す「六百六十六」に注目しなければいけません。これは名前を表して、人間を差しているといっています。ギリシヤ語、ヘブル語、そしてラテン語においても、それぞれのアルファベットに数字があてがわれています。これを、「ゲマトリア(gematria)」と言います。名前のアルファベットを足すと、その合計が六百六十六になるというものです。これが最も妥当な解釈と言えるでしょう。全ての名前に、ゆえに数字をあてがうことができます。

そしてこの数字には、何か意味があるでしょうか？先ほど「人間をさしている」と呼びました。七が完全数で神を示しているならば、六は神より劣る人間を示している数字と言えます。人は神のかたちに造られましたが、「神よりいっくら劣るもの(詩篇 8:5)」として造られました。しかし、人は

神にいくら劣るといふところに留まることを拒みたがります。神に似た者ではなく、神になりたいと思ひます。神に劣るのですから、神との結びつき、神の支配に服従することによつて、神の子として世界を支配することができるのに、神から独立したいと思ふようになっているのです。こうした高ぶりが、「六」の数字に含有されているようです。

GREEK			HEBREW		
1	A, α	Alpha (A)	1	א	Aleph (A, E) A
2	B, β	Beta (B)	2	ב	Beth (B, V) B
3	Γ, γ	Gamma (G)	3	ג	Gimel (G) G
4	Δ, δ	Delta (D)	4	ד	Daleth (D) D
5	E, ε	Epsilon (E)	5	ה	He [Heh] (E, A) H
6	Ϝ, ϝ	Digamma (V, W)	6	ו	Vau (O, U, V, W) V
7	Z, ζ	Zeta (Z)	7	ז	Zayin (Z) Z
8	H, η	Eta (Ē)	8	ח	Cheth (Ch) Ch
9	Θ, θ	Theta (Th)	9	ט	Teth (T) T
10	I, ι	Iota (I)	10	י	Yod (I, J, Y) I
20	K, κ	Kappa (K)	20	כ	Kaph (K, Kh) K
30	Λ, λ	Lambda (L)	30	ל	Lamed (L) L
40	M, μ	Mu (M)	40	מ	Mem (M) M
50	N, ν	Nu (N)	50	נ	Nun (N) N
60	Ξ, ξ	Xi (X)	60	ס	Samekh (S) S
70	Ο, ο	Omicron (O)	70	ע	A'ayin (A'a, O) O
80	Π, π	Pi (P)	80	פ	Pe (P, Ph) Ph
90	Ϟ	Coph (Q)	90	צ	Tzaddi (Tz) Tz
100	P, ϱ	Rho (R)	100	ק	Qoph (Q) Q
200	Σ, σ, Ϻ	Sigma (S)	200	ר	Resh (R) R
300	T, τ	Tau (T)	300	ש	Shin (Sh, S) Sh
400	Υ, υ	Upsilon (Y, U)	400	ת	Tau (Th, T) Th
500	Φ, φ	Phi (Ph)	500	ך	Kaph-final (K, Kh) K
600	Χ, χ	Chi (Ch)	600	ם	Mem-final (M) M
700	Ψ, ψ	Psi (Ps)	700	ן	Nun-final (N) N
800	Ω, ω	Omega (Ō)	800	ף	Pe-final (P, Ph) Ph
900	Ϸ	Sanpi	900	ץ	Tzaddi-final (Tz) Tz

G. M. Kelly

ゴリヤテがダビデに対峙した時に、彼の背の高さが六キュビト半、また槍の穂先が六百シェケルとあります。ゴリヤテは、人間の武器によつて戦おうとしていましたが、ダビデは、「万軍の主の御名によつて、おまえに立ち向かうのだ。(1サムエル 17:45)」と言ひます。そしてネブカデネザルの先ほどの金の像の寸法も、「3:1 その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであつた。」とあります。さらに、そこに音楽を奏でる楽器を数えると、六種類になっています(3:5 等)。神によ

ってその権威と力、栄華が与えられたのに、それを自分の栄光に帰そうしていたのです。そして極めつけは、ソロモンの時代の富、金の重さであります。「1列王 10:14 一年間にソロモンのところには行って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラントであった。」ソロモンが初め、主に愛されて、富を当たられました。徐々に主ご自身への愛から、その富と栄華に目が言ってしまったということです。この僅かな、神から人への栄光の転換が、反キリストの霊をよく表しているといえます。

私たちは反キリストが身近なものであることが、これで分かりましたね。僅かなずれから出て来ます。彼はほとんど完全な、すぐれた人物なのです。しかし、その僅かに劣っているところで、それを完全な神、完全なキリストを拒む根拠、理由としていくのです。それで、キリストなしの国、キリストなしの世界を求めたいと願います。しかし、これこそが光の御使いにも化けるサタンの子業なのです。最後に、パウロの励ましという言葉を読みたいと思います。「2テサロニケ 2:9-15 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光を得させてくださったのです。そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りなさい。」しっかりと堅く立って、キリストの教え、使徒の教えを守っていきたいです。